

- 本サイトの入出場フォームにおいて、「入場」とは定期検査や改造のために臨時回送されること、または定期運用範囲のために臨時回送を行わない場合は敷地内で作業を開始すること、「出場」とは検査・改造後初の本線走行(試運転、回送のいずれか)をすること、「復帰」とは改造後に本線内での試運転を行わずにそのまま入場先から出庫し、定期運用に復帰すること、)と定義します。日付、検査種別とソースを記入し、ソースはX、Instagram、公開ブログ、サイト内メディアを用います。
- 「入場」は臨時回送がある場合(牽引・陸送も含む)と無い場合に分かれます。日付は入場に際した臨時回送が入場先に到着した日、または臨時回送を行わない場合は敷地内で入場に伴う作業を開始した日になります。概念に関しては以下の通りです。

入場 A 入場 B 入場 C

- 「出場」は自走と牽引の2つのパターンがあります。出場の日付は自走の場合、その変更が行われて以降1回目、初めて営業線または回送・貨物線(本線と定義)を、自走でまたは被牽引で試運転・回送のいずれかで走行した際のその走行の到着日(検査・改造前後に本線で確認されたタイミング。東上線と日比谷線の車両なら着発の入場・試運転日。)で反映し、車体表記(多くは構内試運転の日付)とは異なります。東上線と日比谷線の車両など、試運転と返却回送が別日実施の場合においては試運転と回送を別のものと捉えたうえ、入場先始発の試運転日を優先します。ただし東京総合車両センターなど、構内で試運転を行った場合は出場時本線初走行の定義で返却回送の到着日で反映するため、「試運転＝出場反映」とは限らない点に注意が必要です。
- 牽引(配給、甲種輸送)の出場はその変更(新製含む)が行われて以降1回目に初めて本線を走行し、すべての牽引を終えた日付で反映します(長野、秋田出場の配給などでは試運転を本線で行わないため、こちらの定義で反映します。牽引がある際のルール統一のため、東大宮・国府津で牽引を終えた場合はその時点で出場反映し、返却回送は考慮しません)。概念に関しては以下の通りです。

出場 A 出場 B 出場 C 出場 D 出場 E 出場 F 出場 G

- 写真や動画が公開されていない目撃情報(目撃掲示板を含む)を確認した場合、日付末尾に「?」を付けて反映することができます。また、モデレーターは別ルール(最下部*1)での反映ができます。
- 「上旬」「中旬」「下旬」とは、上記の「入場」「出場」の定義・概念においていつ起きたかが全く不明な場合、推測用として用います。明確な場合は使用する必要はありませんが、入場 C において日付が特定できる場合は、構内移動・作業開始の様子など明確なソースが必要です。
- 出場の試運転・回送のソースが非公開アカウントを含めて全く供給できなかった場合、運用サイトの過去データをソースとした上、3日間運用サイトで目撃されてから「上旬」「中旬」「下旬」+出場を用いることができます。
- 「復帰」とは、改造後に本線内での試運転を行わずにそのまま入場先から出庫し、定期運用に復帰することを指します。条件としては、「①検査種別が臨時であること」「②改造・作業場所が定期運用範囲内の車庫で、定期運用入庫後のものであること」となります。概念に関しては以下の通りです。

- 定期検査を行わずに出場が確認された際は補足に「臨時」を含む文章をお願いします。形式別[最終出場一覧表](#)へ直接は反映致しませんが、その編成の入出場履歴には残ります。
- 組み換えにより検査の種別が混在する場合(全重検を除く)は、表を赤字で区別するため「重検(一部は全検:サハ)」のように「一部」を含んだ文で書きます。
- 形式別[出場一覧表](#)へは「出場時検査種別」の最初の2文字が反映されます。
- 所属区所での検査以外の動向(改造など)は、話題性があれば[編成ノート](#)へ反映とし、入出場へは反映しません。(ただし、深川検車区・深川工場など、隣接していても別箇所への入出場は例外的に反映します。)
- 入出場が無くても、入出場相当の定期検査(省令90条の重要部検査以上)は[出場](#)反映対象です。【例】JR新潟車両センターでの指定保全、小田急海老名・喜多見検車区での新重要部検査。
- 回送を伴っても、車輪削正・軸替は反映対象外です。【例】東京メトロ上野検車区所属車の中野検車区への入区(スジ・検査時期で区別)、東急元住吉検車区所属車の長津田検車区への入区(スジ・検査時期で区別)、東京メトロ王子検車区所属車の綾瀬検車区への入区(検査時期で区別)、小田急車の大野総合車両所への入区(検査時期で区別)。
- 入出場以外の定期運用範囲への疎開は反映しません。東京総合車両センターなど、検査・改造を行う施設として機能し、回送だけを見たら検査か疎開かを見分けられない場合のみ、例外的に反映します。
- 増結車の動向は編成表との連動に難があるため反映対象外です。【例】E235系G車、目黒線、南北線関係の増結車。
- 新製出場は反映対象ですが、データベースに存在しない編成は反映できないため、編成表反映後の入力となります。この際「臨時」などの記載は不要です。
- 誤入力や疑義、ご提案がございましたら、自己申告も含め、[検査出場時期グループ](#)へお願い致します。このグループのモデレーターは修正権限を持っています。事前に適当日付で入出場登録をし、モデレーターが編集して正しいデータに修正して反映することも可能ですが、その際は入力をする前に当グループもしくはモデレーターのSNSに直接申告してください。
- 非公開アカウントから画像の引用許可を得て借用し、著作権法に則って入出場反映することは可能ですが、画像若しくは検査種別に撮影者名の記載をお願いします。

JR

- 対象はJR東日本の新系列電車と205系です。211系、253系などは現時点では対象外ですが、近々対応予定です。
- 秋田総合車両センター本所の[自走](#)出場は回送の目撃が少ないため、構内試運転が行われた時点で「上旬」「中旬」「下旬」として反映します。ただし本線試運転・回送が目撃された場合は[本線初走行日のため、その日を優先して記録](#)します。

(傾向) 構内試運転→次の平日に本線試運転→そのまま回送

- データベースに存在しない編成は反映できず、新編成番号の場合はフォーラムへのご投稿を検討ください。
- 新津出場は最初から本線で試運転を行うため、配給牽引到着ではなく、自走のルールで事後反映させます。編成表の日付と異なることに注意が必要です。

大手公民鉄

- 対象は首都圏の全大手私鉄・都営地下鉄を走行する車両です。ただし軌道線、AGT、機関車、客車、貨車、事業用車は対象外です。
- 入場において、運用サイトに最終目撃から5日間経過した、定期検査時期付近の編成・改造工事がされると予測されていた編成は、例外的に反映します(本線上の臨時回送が無い入場や、入場回送のソースが全くない場合)。最終目撃から5日経ったタイミングで、ソースに運用サイトの過去データを貼り、入場中の様子があればソースに取り入れ、種別欄に「●/■(日付、営業をしなくなった最初の日)～離脱」(「最終目撃から5日経過」と補足・入力ください。ただし、車輪削正・軸替関係の動向が報告されている編成は反映しません。
- 西武の新重要部検査は、車内の封印シール変更が複数確認された場合、例外的に反映します。ただし、編成内複数車両の変更確認が条件です。
- 新型車両の新製甲種輸送・搬入後、初めての日中試運転は出場登録の対象になります。新型車両は搬入直後から本線試運転を行うまで運用に就くことが出来なく、本サイトの「路線・系統別編成表」の運用中の編成数に含められないため、搬入先に入場登録を掛けておく必要があります。【例】西武 40000 系は甲種輸送後に小手指入場、東京メトロ 2000 系は中野への陸送搬入後に中野入場。後者は牽引からの後日陸送のため、新製反映日と入場搬入日が異なります。
- 新型車両や車両更新明けで深夜(本線で営業運転を一切行っていない時間に被るもの)に誘導障害など・日中に再度性能確認と分けて試運転を行う例があります。その場合は夜間試運転が終わったら一度入場登録を掛け、再度日中試運転を出場登録して頂くのが望ましいです。

編成番号例

JR

編成表と同様、編成札がある場合は編成札の表面の表記、前面ガラスに表記されている場合はその表記を編成番号にしています。

JR 車両動向で編成を呼ぶ場合、車体に表記されている所属表記のカタカナ(宮八工なら八工)に、この編成番号を加えて呼ぶよう統一しています。(参加型コンテンツは区別できれば良いと思います。)

一部、編成番号の無い形式、統一されていない形式は、下記の番号を仮定しています。こちらをご利用ください。

- E655 系 - 「オクなごみ編成」5 連、「トウなごみ編成」1 両を別々に登録。
- E001 系 - 「オク四季島編成」10 連。
- 701 系(盛岡) - 「モリ 1015F 編成」2 連などで登録。
- E653 系(新潟) - ハイフンの有無が車体表記で混在していますが、「ニイ U-101 編成」7 連のようにハイフンありで登録。

大手私鉄

基本的に編成表の編成名です。

- 東京メトロなど（一部を除く）では「[01] 8101F」のように編成番号を付記していますが、「8101F」と入力します。
- 小田急電鉄では「1051x6」のように編成両数を付記していますが、記号の揺らぎを避けるため、「x」を入力する場合は「半角エックス」をお願い致します。
- 埼玉高速鉄道は「2101F」、東葉高速鉄道は「2101F」、横浜高速鉄道は「Y511F」のように入力します。

出場時検査種別（JR）

記入事項の代表例を列挙します。

JR

基本は「指定保全→装置保全→指定保全→車体保全→指定保全→装置保全」、または「C 保全→D 保全→C 保全…」と回ります。検査表記がありますが、表記では装置保全と車体保全是見分けが付きません。

指定保全 基本的に車輪の交換を行わない検査。（E001 形、701 系など積雪線区の車両は指定保全でも車輪を交換します。E129 系は例外的に新潟車両センターで実施するものの、回送が発生しないため、**検査表記が確認できない限り**は反映しません。）

装置保全 通勤線区では経年 7 年、20 年程度、近郊線区では経年 5 年、15 年、25 年程度に実施される車輪を交換する検査。
（房総地区の 209 系など車輪が持たずに繰上げ入場する例があります。）

車体保全 通勤線区では経年 13 年、27 年程度、近郊線区では経年 10 年、20 年程度に実施される車輪を交換する検査。（房総地区の 209 系など車輪が持たずに繰上げ入場する例があります。屋根塗直しが原則でしたが近郊線区では装置保全での実施例があります。）

C 保全 E235 系（モニタリング保全）のみ。車輪の交換を行わない検査。指定保全に相当します。

D 保全 E235 系（モニタリング保全）のみ。車輪を交換する検査。装置保全に相当します。

要検 **要部検査を略称で記載。205 系など、新系列ではない車両で採用。**

全検 **全般検査を略称で記載。205 系など、新系列ではない車両で採用。**

205 系は新系列では無い「新形式」で、要部検査と全般検査が交互に来ますが割愛します。

出場時検査種別（地下鉄）

東京地下鉄（メトロ）

基本は「重要部検査→全般検査→重要部検査→全般検査」と回りますが、全重検（編成中、全検と重検を混ぜることで工事を均等化）を行う形式もあり、全重検を行っているか不明な形式があります。検査表記が無いため一部推測となります。

全重検 02 系、05 系、07 系、08 系、8000 系、13000 系、15000 系。例えば 02 系の場合は「1～3 号車」と「4～6 号車」、05 系の場合は「1～3、6、7 号車」と「4、5、8～10 号車」で検査種別を変えて、それぞれ重要部検査と全般検査を交互に実施。サイトでは「全重検」と書きます。

重検 1000 系、2000 系、9000 系、10000 系、16000 系、17000 系。重要部検査を略称で記載。

全検 1000 系、2000 系、9000 系、10000 系、16000 系、17000 系。全般検査を略称で記載。

第 n 検査 10000 系、16000 系、18000 系。検査種別が不明なため、新製後、何回目の検査かを記録しておき、全重検かが判明した時点で反映します。回数がわからない場合は「第 n 検査」とそのまま記入。

都営地下鉄

「重要部検査→全般検査→重要部検査→全般検査」と回ります。

重検 重要部検査を略称で記載。

全検 全般検査を略称で記載。

横浜市営地下鉄（準備中）

（案）「重検→全検→重検→全検」と回ります。周期を 4 年から 5 年に伸ばした検査は「保全」を付けて「重要部保全検査」「全般保全検査」と呼びます。ブルーライン（3000S 形以外）では重要部保全検査より検査項目を減らした姿による新重要部検査が行われていますが、他社と異なり判別が困難なため「重検」として扱います。

重検 新重要部検査、重要部保全検査、重要部検査を略称で記載。

全検 全般保全検査、全般検査を略称で記載。

出場時検査種別（大手私鉄）

東急電鉄

基本は「重要部検査→全般検査→重要部検査→全般検査」と回りますが、組み換えにより混在している場合があります。検査表記が無いため一部推測となります。

重検 重要部検査を略称で記載。

全検 全般検査を略称で記載。

混在 検査種別が混ざっている編成。

東武鉄道

「重要部検査→全般検査→重要部検査→全般検査」と回ります。

重検 重要部検査を略称で記載。30000系、50000系、60000系、70000系は配置区所で実施。

全検 全般検査を略称で記載。

小田急電鉄

基本は「重要部検査→全般検査→重要部検査→全般検査」と回ります。形式により重要部検査と新重要部検査があります。検査表記があります。

重検 重要部検査を略称で記載。

新重検 新重要部検査を略称で記載。配置区所で実施。3000形、4000形で実績あり。

全検 全般検査を略称で記載。

京王電鉄

検査体系に関わらず、床下機器が重要部検査では未塗装、全般検査では塗装と推測されます。基本は全重検ですが、1000系、9000系、5000系の一部編成は重要部検査、全般検査を繰り返す体系です。出場時状況で選択してください。

重検 重要部検査を略称で記載。1000系、9000系、5000系で移行中。

全検 全般検査を略称で記載。1000系、9000系、5000系で移行中。

全重検 編成内で検査種別を変えて、それぞれ重要部検査と全般検査を交互に実施。サイトでは「全重検」と書きます。

西武鉄道

「重要部検査→全般検査→重要部検査→全般検査」と回ります。形式により重要部検査と新重要部検査があります。また、全重検（編成中、全検と重検を混ぜることで工事量を均等化）を行う形式があります。

重検 重要部検査を略称で記載。武蔵丘車両検修場にて 101 系、
2000 系（4 連・2 連）、9000 系に実施。

新重検 新重要部検査を略称で記載。2012 年度以降、各配置箇所（下表参照）にて 20000 系、30000 系、40000 系、001 系に実施。

	池袋線車両所	新宿線車両所
001 系	小手指	
40000 系 0 番台	小手指	
40000 系 50 番台	武蔵丘	
30000 系 10 連	武蔵丘	玉川上水
30000 系 8 連	武蔵丘	南入曽
30000 系 2 連	武蔵丘	
20000 系 10 連	武蔵丘	玉川上水
20000 系 8 連	小手指	南入曽

全検 全般検査を略称で記載。武蔵丘車両検修場にて実施。（6 連・8 連の 2000 系、6000 系、10000 系を除く。）

全重検 編成内で検査種別を変えて、それぞれ重要部検査と全般検査を交互に実施。サイトでは「全重検」と書きます。6 連・8 連の 2000 系、6000 系、10000 系で実施。

※「屋根全塗装」＝重検または全検、「屋根部分塗装・未修繕」＝重検

京浜急行電鉄

基本は「重要部検査→全般検査→重要部検査→全般検査」と回ります。

重検 重要部検査を略称で記載。

全検 全般検査を略称で記載。

京成電鉄

基本は「重要部検査→全般検査→重要部検査→全般検査」と回ります。形式により重要部検査と新重要部検査があります。出場日は、試運転を二度行う形式を含め、宗吾参道～八千代台の試運転日で反映します。

重検 重要部検査を略称で記載。

新重検 新重要部検査を略称で記載。3700 形、3000 形で実績あり。

車体床下機器の全塗装を省略。

全検 全般検査を略称で記載。

相模鉄道

「重要部検査→全般検査→重要部検査→全般検査」と回ります。全重検（編成中、全検と重検を混ぜることで工事量を均等化）を行う形式があります。

重検 重要部検査を略称で記載。10000 系以降の形式で実施。

全検 全般検査を略称で記載。10000 系以降の形式で実施。

全重検 編成内で検査種別を変えて、それぞれ重要部検査と全般検査を交互に実施。サイトでは「全重検」と書きます。8000 系、9000 系で実施。

首都圏新都市鉄道

少なくとも TX-1000 系、TX-2000 系は全重検となっています。

全重検 「1～3 号車」と「4～6 号車」で検査種別を変えて、それぞれ重要部検査と全般検査を交互に実施。サイトでは「全重検」と書きます。

車体修繕時は検査を行いません。（臨時と明記をお願いします。）

（参考）モデレーターのルール

【*1】でモデレーターのみに認めている「？」を付記した入力は下記の通り扱います。

- 過去データの登録では、独自ソース(モデレーターが SNS において非公開のアカウントをフォローしている際、入出場をそれによって確認した場合など、基本的に少数の人しか確認できないソース)・画像なしソース(SNS や運用サイトにおける目撃情報のみの場合)があるときに「？」を使用して投稿可能。「？」は半角指定。
- 独自ソース・画像なしソースがある場合、運用復帰など、出場した姿が確認されたタイミングで、ソースで示された日付に「？」を使用して投稿・承認可能。
- 前項において、最終手段として独自ソース・画像なしソースによる入出場が確認されて 3 日経っても運用サイトの確認のみで画像で復帰が確認されない場合、ソースで示された日付に「？」を付けて投稿・承認可能。